

1 本年度の研究テーマ

主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目指して

2 本校のこれまでの研究

28, 29 年度は、「学ぶ楽しさが分かる喜びを実感できる授業の工夫～UDの視点を取り入れた授業改善を通して～」のテーマで研究を行った。その成果を土台とし、昨年度は、新学習指導要領で謳われているこれからの時代に求められる資質・能力を育成する柱となる主体的・対話的で深い学びの実現に向けて道徳・外国語活動を中心に授業改善を行ってきた。見通し・学び合い・振り返りの3つの視点で研究を進めた。成果として、児童のアンケート結果から「こんな考えがあったんだと気づくことがあった。」「友だちとコミュニケーションをとりながら学び合えた。」「振り返りができた。」という項目で高まりが見られた。また、振り返りにより自分の学びに自信が持てるなど自尊感情の高まりが見られた。

見通し・学び合い・振り返りの三つの視点での授業改善は、一人一人の主体的な学びを支援するものとなった。

3 学校教育の今日的課題

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）において、次のことが述べられている。

子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるように、「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を図っていくことが指摘されている。この学びの質を高めていくために、「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点）に向けて、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取組の活性化が求められている。

平成32年度に完全実施となる新学習指導要領での大きな改訂の柱として、本年度から実施の道徳の教科化と本年度より先行実施となった3～6年生の外国語活動がある。道徳と外国語活動の「主体的・対話的で深い学び」を授業の中で実現するために、全職員で学び合う必要があると考え研究テーマを設定した。

4 児童の実態

全国学力・学習状況調査の結果をみると、「自尊意識等」「学習意欲」に課題が見られる。自己の肯定感や学習意欲、学ぶことの楽しさや意義、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識、社会参画への意識等の課題が指摘されている。

普段の授業の様子としては、対話や議論を通じて、自分の考えを進んで話すことのできる児童は多くない。発表の型に沿って発表はできるが、そこから一歩踏み込んで互いの意見をつなぎながら深めていくような授業はあまりできていないと感じる。

5 テーマについて

○主体的とは

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体

的な学びの過程が実現できているかどうか。

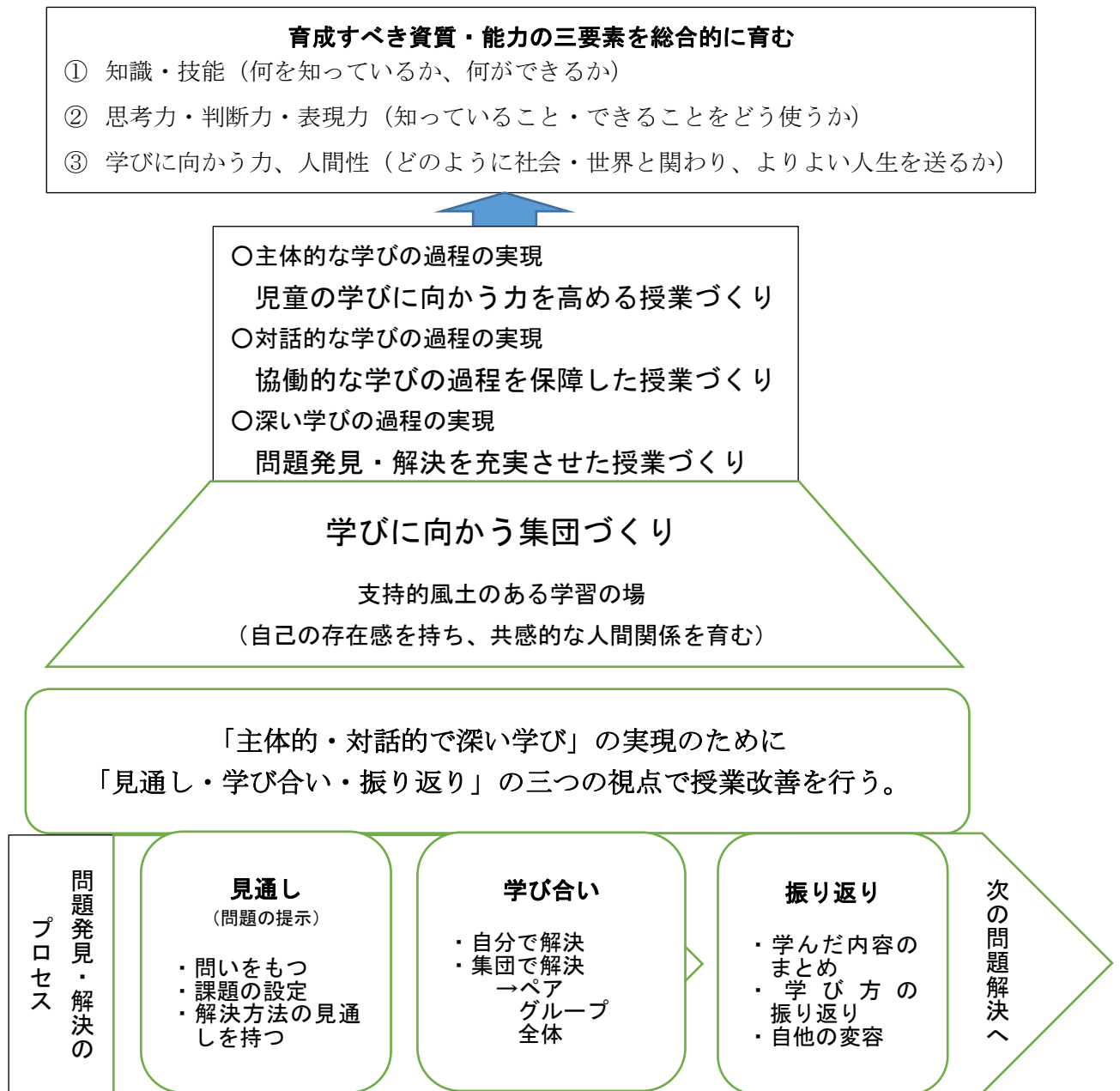
○対話的とは

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

○深い学びとは

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

(H28, 8, 28 中央教育審議会「学習指導要領改訂の基本的な方向性 論点整理におけるアクティブ・ラーニングの視点」文科省ホームページより抜粋)



6 研究の仮説

見通し・学び合い・振り返りの三つの視点に立った授業改善を行うことで主体的・対話的で深い学びのある授業を実現できるであろう。

7 研究の視点を踏まえた教師の手立て

	問題発見・解決のプロセス		
	見通し	学び合い	振り返り
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題意識からの課題の設定 ○具体物や体験活動などを取り入れ驚きや疑問などを生み出し課題につなぐ場の設定 ○自己選択や自己決定をする場の設定 ○目的意識や相手意識が明確な課題の設定 ○挑戦意欲や知的好奇心をかきたてる課題の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人学びの時間の確保 ○児童が思考したり表現したりしたことへの評価 ○自己の考えを整理したり再構築したりする場の設定 ○挑戦する意欲をかきたてる助言 ○自由に応答できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の変容を自覚する場の設定や助言 ○児童の学びの過程に対する価値づけ ○実生活とのつながりについて気づく資料などの提示 ○振り返りの視点を共有し、互いのよさに気づくような助言
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○集団で解決したり議論したりする必然性のある課題の設定 ○ルールの共有化 ○交流のめあてをもちたり意義を理解したりするような助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に合った小集団の設定及び交流方法の活用 ○必要感のある交流の場の設定 ○効果的な交流を行うための可視化の工夫 ○共通体験の場の設定 ○「問い返し」のある応答をする交流への助言 ○支持的風土に支えられた活動の保障(聴き合う関係づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアや少人数のグループで学習成果や学びの過程を吟味する場の設定 ○他者との学び合いや多様な情報収集・精査によって課題が解決したことへの価値づけ ○多様な他者からの評価の場の設定(相互評価)
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の特質に迫る課題の設定 ○実生活で活用できる課題の設定 ○認識が揺さぶられる課題の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の考えを比較・関連付けする場の設定 ○共通体験に基づいて、多面的・多角的に考える場の設定 ○授業のねらいや各教科の特質に応じた思考の可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考を揺さぶり、学びの過程を再考する場の設定 ○自分の学びを自分の言葉でまとめる時間の確保 ○実生活、既習の学び、他教科との関連を価値づけ